

川崎医療短期大学「紀要」 第20号の発刊によせて

学長 望 月 義 夫

このたび川崎医療短期大学「紀要」第20号が発刊の運びとなりました。喜びに耐えません。言うまでもなく、大学に於いては研究活動は不可欠であり、専門的分野を深く追求し、学問の進展に貢献するとともに、教育効果を高め、研究と教育は車の両輪の如く、両方あいまって、大学の教育機関としての真価が発揮されます。そこで研究成果の発表機関誌である「紀要」の持つ意義と役割は誠に大きいものがあります。

「紀要」の創刊については、当時の学長 故 川上亀義先生が、大学において幾多の優れた研究が行なわれているが、それらの研究成果の一部は関係学会誌や川崎医学会雑誌などに掲載発表されているものの、その数は限定されており、多くの研究成果は、その公表の機会が極めて少ないことを大変残念に思われ、多大なご尽力の結果、大学独自の研究発表機関誌として「紀要」第1号が1981年に発刊されました。

創刊号が発刊されてから今日までの20年間に、教職員から優れた原著論文や総説はもとより、本学ならではの教育実践報告、調査研究報告が約250編もの多数寄せられ、しかもそれらは本学の総合医療系短期大学としての特徴を反映した、多彩で各分野に亘る、充実した内容のものであります。

これには本学教職員が、日頃から教育、研究に積極的に研鑽を積まれている結果であり、また「紀要」発刊のためにご援助を頂いている川崎学園理事長の川崎明德先生、さらに歴代の「紀要」編集委員長はじめ編集委員の先生方の多大なご努力によるものであり、深く感謝いたします。

20世紀最後の節目の年に、「紀要」創刊20周年を迎え、記念すべき第20号が発刊の運びとなりましたことは、誠に意義深く、心からお祝いいたしますとともに、来るべき21世紀においても、本学の研究活動が、教育活動との両輪として一層高まり、川崎医療短期大学「紀要」が本学研究成果の発表の場として、ますます充実・発展することを心より願って、「紀要」第20号発刊のお祝いの言葉といたします。